

デンタルダイヤモンド／2014. 2月号

○実践歯科ライブラリー／口呼吸の改善—健やかな子どもの成長を目指して—

(保田好隆・保田好秀)

*矯正治療は、永久歯列前期までのⅠ期治療とそれ以降のⅡ期治療に分けられますが、「Ⅰ期治療は行っても効果がなく、行わなくてもⅡ期治療の結果は同じ」と、否定あるいは軽視する考え方もあります。しかし著者らは、学童期の咬合異常の大きな原因の一つが「口呼吸」にあると考え、さらに「口呼吸」を改善することで、多くの利点があると考え、スケルトンタイプの拡大装置を用いて、歯列弓の拡大を行っています。その結果、セファロで、気道の拡大が認められ、口呼吸の改善が見られたと報告しています。咬合育成を行う先生は是非、読んでほしい内容です。

○Orinsho. Com／一般開業医が行う咬合育成—その有効性と課題 (猪狩寛晶)

*一般開業医に歯列不正を主訴として子供が来院することは少ないが、われわれが早期に咬合育成に関与することで、健全な歯列に導いていける症例は比較的多いと思われます。本稿では、萌出異常・悪習癖・スペース不足の症例を提示して、一般開業医が行う咬合育成の有効性と課題について考察しています。

歯界展望／2014. 2月号

○特集／天然歯周囲組織とインプラント周囲組織 1

— 歯周炎、インプラント周囲炎の正確な理解と対応に向けて—

(山本松男 下野正基 谷口威夫 山本剛 藤田剛 橋本定充)

*本特集は、単なるインプラント周囲炎の話ではない。それは、執筆者の顔ぶれを見ていただいても理解できると思う。基礎系の研究者から臨床系の研究者さらに臨床医までそれぞれの立場で問題提起している。その趣旨は歯周組織の上皮機能を改めて見直すための特集と言える。主に昨年の第56回日本歯周病学会—Gingival Marginを見つめなおす—の企画の発展型である。それぞれの著者の今回のテーマのポイントを列挙するので、興味を覚えた先生は、ぜひお目通し頂きたい。

山本松男：歯肉上皮の健康がなければ、予防も再生も十分な効果が得られない。

下野正基：プラークの完全除去が再生療法の必要条件

谷口威夫：長期症例から探る、下顎第2大臼歯はどうして短命なのか

山本 剛：接合（付着）上皮の持つ全身組織の中の特異性

藤田 剛：新しいコンセプトの歯周病予防法

橋本定充：10歳の健康歯肉にスティッピングは存在するか？

ザ・クインテッセンス／2014. 2月号

○特集2／総義歯成功への近道を探る

痛くない、よく噛める、動きの少ない、顎堤吸収の少ない義歯をめざして

(コーディネーター：前田芳信 プレゼンター：奥野幾久／松田謙一)

*予知性をもった総義歯臨床を目指すということは治療の各工程の誤差を少なくすることで、BPS(Biofunctional Prosthetic System)では印象と咬合採得の段階で幾度かの確認を取り入れている。難症例の患者にBPSを参考として従来の方法との共通点から見えてきたものは①基本となるルーティンのアプローチをもち、使用する材料を決める②概形印象を重要視する③安定した中心咬合位置を確保する(GoAを採得する)④調整では適合、外形、咬合、剛性に注意することである。

○特集3. 完全理解！若年者の歯髄処置方針 PRV&TAB (月星光博)

*PRV(Pulp revascularization)とは、いったん感染のない歯髄壊死(虚血性の変化)に陥った歯髄組織に血管再生が起こり、歯髄組織に生活反応が戻ることを指す。通常、歯髄は急速な石灰化を生じる。TAB(Transient apical breakdown)とは、主に歯根完成歯の垂脱臼後に一時的にみられ、根尖部の骨透過像と歯根吸収を特徴とする。これにより根尖孔が拡大し、虚血性変化に陥った歯髄にPRVが生じる。これらの現象は歯髄の自然治癒能力の高さ示している。よって、エンドにおいて感染の排除が治癒にとっていかに大切な、また若年者では性急な抜髄は慎むべきであることを筆者は強調し、最後に「何のために歯髄があるのか」と聞かれれば、「象牙質をつくるためにある」と答えたいと締めくくっている。

日本歯科評論／2014. 2月号

○＜特集＞加齢変化(エイジング)をどう捉えるか？—ライフステージに合った歯科治療を考る

(井上 孝 吉沼直人 他)

*高齢者の根管治療をおこなっているとき、「根管がみつからない！」などといった経験はありませんか。まさに加齢変化(エイジング)です。超高齢化社会に突入した現在、そしてこれから加齢変化の影響を受けた患者さんが増えてくると思われます。そういった患者さんをどのようにとらえ、治療していくか各視点から考察しています。是非一読を！

○良質な臨床と安定した経営を目指して—破折歯を保存する取り組みを通して(3)

(丸山弘明 大久保弘道 他)

*スタディグループPDM札幌の活動からの報告です。破折歯の接着治療、および意図的抜歯再植法について検討しています。何とか破折歯を残せないかという命題を臨床的のみならず病理学的に検討しています。明日からの臨床のヒントとなる記事だと思われます。